

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2024
OCTOBER

No. 139

Sun. 6th October
Niigata Subscription Concert

No. 725

Sat. 12th October
Subscription Concert

No. 97

Sun. 13th October
Kawasaki Subscription Concert

10



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター	小林杏成
	ブレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コンジュンコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子
監 事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 星 久人
評議員	鷲海量明 山添 茂
	片山泰輔 芳野まい
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 加藤まな
- 福留史純
- 河根あずさ
- 鈴木浩司
- 辻田薫り
- 阿部真弓
- 坂井みどり
- 塩谷しずか

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西広興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 新井瑞穂*
- 金田澁司*

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 菅 沼
- 川井真由美
- 内山剛博
- 響江慶行●
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子

Double Bases

- 助川 龍
- コーデイ・ブーム
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子

Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

Flute & Piccolo

- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 給理子
- 荒木良太
- 浦脇健太

Oboe&English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴェ
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 白井有琳*

Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 明
- ローリー デイラン*

Trombones

- 大馬直人
- 鳥塚心輔
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 近藤陽一

Timpani& Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

楽団員

- 井伊 準◆

楽団長

- 廣岡克隆

編成局シニアディレクター

- 藤原 真

編成局パーソンネルマネージャー

- 謝名元 民

楽団委員

- 北村一平 (議長)
- 多井千洋 (書記)
- 相澤政宏
- 浦脇健太
- 鈴木浩司
- 福留史純

事務局長

- 辻 敏

事務局

- 尾木貞雄
- 堀川純子
- 市川萌都
- 伊藤埃海
- 榎 日向
- 小川博司
- 桐原美砂
- 高瀬 緑
- 長久保宏太郎
- 山田道子
- 三橋真琴*

名誉団友
深江泰輔 ◆
三木暁雄 ◆

団 友

- 大野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川陽依世
- 今村弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彩雄
- 内田由利子
- 宇都 美
- 梅田 孝
- 大隈雅人
- 大塚正裕
- 大慈康男
- 大和田浩明
- 大和田ルース
- 小川さえ子
- 荻野 晃
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- 笠原 誠
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 塚谷仁士
- 黄原崇司
- 小林照雄
- 小林亮子
- 阪本正彦
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 藤崎 隆
- 菅野明基
- 杉浦直樹
- 岸澤英雄
- 菅根敦子
- 武田英昭
- 田中典輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西野秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田実保子
- 日野 奏
- ペアン・ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 陸
- 森みさ子
- 清徳健久
- 渡辺 功
- 渡辺信郎

☆○首席奏者 □シニア・ディレクター ●研究員・洋事務局長 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い/高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

10/6 SUN.

新潟定期演奏会 第139回

2024年10月6日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.139

Sun. 6th. October 2024, 17:00 Ryutopia Concert Hall

クシシュトフ・ウルバンスキ [指揮]
小林愛実 [ピアノ]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]Krzysztof URBAŃSKI, Conductor
KOBAYASHI Aimi, Piano
Gleb NIKITIN, Concertmasterコネッソン:輝く者
—ピアノと管弦楽のための(9')
(日本初演)G.CONNESSON: The Shining One for
Piano and Orchestra (9')
(Japan Premiere)

ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調 (23')

I.アレグラメンテ
II.アダージョ・アッサイ
III.プレスト

M.RAVEL: Piano Concerto in G major (23')

I. Allegamento
II. Adagio assai
III. Presto

休憩(20')

Intermission(20')

ムソルグスキー/ラヴェル編:
組曲「展覧会の絵」(35')プロムナード
小人
プロムナード
古城
プロムナード
テュイルリーの庭
ビドロ
プロムナード
殻を付けたひな鳥のパレエ
サミュエル・ゴールデンベルクとシュミュイレ
リモージュの市場
カタコンブ(ローマの地下墓地)
~死者とともに死者の言葉をもって
鶏の足の上の小屋
キエフの大門M.MUSSORGSKY(arr.M.RAVEL):
Pictures at an Exhibition (35')Promenade
Gnomus
Promenade
Vecchio Castello
Promenade
Tuileries
Bydlo
Promenade
Ballet des poussins dans leurs coques
Samuel Goldenberg et Schmuyle
Limoges - Le Marché
Catacombae - Sepulchrum romanum
- Cum mortuis in lingua mortua
La Cabane sur des pattes de poule
La Grande Porte de Kiev

- 主催/公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、NST新潟総合テレビ
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

※新潟定期演奏会は新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.6をご覧ください

RYUTOPIA
THE NEW CONCERT HALL文化庁
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

10/6 SUN. 12 SAT. 13 SUN.



© Grzesiek Mart

Krzysztof URBAŃSKI

Conductor

クシシュトフ・
ウルバンスキ
[指揮]

1982年ポーランド生まれ。米・インディアナポリス響音楽監督、ノルウェー・トロンハイム響名誉客演指揮者、NDRエルプフィル管(旧北ドイツ放送響)首席客演指揮者を経て、スイス・イタリアーナ管首席客演指揮者、ワルシャワ国立フィル音楽・芸術監督、ベルン響首席指揮者を務める。

東京交響楽団へは2009年11月に初登場。リハーサルから暗譜で行うなどその才能を遺憾なく発揮し、楽団員からの信頼も厚く、2013年から3年間首席客演指揮者を務めた。ベルリン・フィル、シュターツカペレ・ドレスデン、ロンドン響、パリ管、チューリッヒ・トーンハレ管、シカゴ響、ニューヨーク・フィルなど世界中からオファーが絶えず、今シーズンはミュンヘン・フィル、バイエルン国立管との再共演も注目を集めている。

2015年、目覚ましい活躍をした新進音楽家に贈られる『レナード・バーンスタイン賞』を指揮者として初めて受賞。2007年ポーランド・ワルシャワのショパン音楽アカデミーを卒業、同年プラハの春国際指揮者コンクールで優勝。

Highlights of Krzysztof Urbanski's 24/25 season include returns to the Münchner Philharmoniker, Bayerische Staatsorchester, Bamberger Symphoniker and Beethoven's "Fidelio" production at the Opernhaus Zürich.

Urbanski appeared as a guest conductor with the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Berliner Philharmoniker, Staatskapelle Dresden, Gewandhausorchester Leipzig, London Symphony Orchestra, Philharmonia Orchestra, Tonhalle-Orchester Zürich, Orchestre de Paris, Chicago Symphony, New York Philharmonic and the San Francisco Symphony, among others.

Krzysztof Urbanski served as Music Director of the Indianapolis Symphony Orchestra (2011-2021) and as Chief Conductor and Artistic Leader of the Trondheim Symphony (2010-2017, in 2017 he was appointed Honorary Guest Conductor). He was Principal Guest Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra (2012-2016) and Principal Guest Conductor of the NDR Elbphilharmonie Orchester (2015-2021). Urbanski is Music and Artistic Director of the Warsaw Philharmonic, Chief Conductor of the Berner Symphonieorchester and Principal Guest Conductor of the Orchestra della Svizzera italiana.

10/6 SUN.



©Shuhei Tsunekawa

KOBAYASHI Aimi

Piano

小林愛実
[ピアノ]

2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。

これまでに、スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ジャッド指揮ブラジル響、ポスカ指揮チューリヒ・トーンハレ管など国内外における多数のオーケストラと共演している。

2010年14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。サントリーホールで日本人最年少となる発売記念リサイタルを開催した。

2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリストとなった。

2018年にはワーナークラシックスとインターナショナル契約し、「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。今秋、最新CD「シューベルト：4つの即興曲作品142、ピアノ・ソナタ第19番 短調、ロンドイ長調 他」をリリース予定。

フィラデルフィア・カーティス音楽院で、マンチェ・リュウ教授のもと研鑽を積んだ。

2022年3月、第31回出光音楽賞受賞。

Aimi Kobayashi was born in 1995 in Ube, Japan. She started playing piano at the age of three, made her concerto debut at the age of eight, and started her international career at the age of nine. Having four successful recitals in Carnegie Hall under her belt, she extensively performs all over the world. Aimi also regularly performs with major orchestras, both in Japan and overseas, including the Orchestra of the Eighteenth Century under Frans Bruggen, the Moscow Virtuosi under Vladimir Spivakov, Orchestre Philharmonique Royal de Liège under Christian Arming and Tonhalle-Orchester Zürich under Kristina Poska. Aimi records with Warner Classics, her latest album with Chopin: Preludes, Polonaise & Fantaisie was released in August 2021. In 2015, Aimi became one of ten finalists at the Warsaw XVII International Chopin Piano Competition, returning back in 2021 and getting 4th prize at the Warsaw XVIII International Chopin Piano Competition. She studied with Meng-Chieh Liu at the Curtis Institute of Music. In March 2022, she was awarded the 31st Idemitsu Music Award.

10/6 SUN.

ギヨーム・コネツソン (1970 ~)

輝く者—ピアノと管弦楽のための〈日本初演〉

現代フランスの作曲家ギヨーム・コネツソンの作風は、一貫して調性的で親しみ易い反面、巧みなオーケストレーションで謎めいたイメージや抑えがたい熱狂を喚起する。本作は2008年の作で、ジャン=イヴ・ティボーデの委嘱により「ラヴェルのピアノ協奏曲続編として」書かれた。題名は、アメリカの作家エイブラハム・メリット (1884 ~ 1943) のSF小説『ムーン・プール』に登場する、超古代遺跡から現れた悪なる存在のこと。この存在を見た調査隊員は、恐怖と同時に妙なる音の魅力に恍惚としてしまい、捕らえられていく。全体は、連続する3つの楽章から成る。

第1楽章 「魔術的」と指示された弱音の管弦楽とピアノによる序奏では、異界から響く声さながらに金管楽器の和声が聞こえてくる。アルペッジョにより「軽やかに、煌めくように」独奏ピアノが入り、跳躍やトリルを多用しながら音の光線を放つ。

第2楽章 「いっそう穏やか」なピアノ独奏で始まる。楽想は「魅惑し、優しく撫でるように」。程なく半音階のため息のような音型が「遠くから聞こえる泣き声のように」響く。

第3楽章 第1楽章のテンポが回帰し、舞踏のリズムで幕を開ける。第1楽章の主題が「いっそう生き生きと」顔を出したかと思うと、「極度に速く」という指示まで加速し、恐怖と恍惚が混ざり合いながら熱狂のうちに曲が閉じられる。

上田泰史 Text by UEDA Yasushi

作曲:2008年

初演:2009年3月28日グラスゴーにて、ステファン・ドゥネーヴ指揮、ジャン=イヴ・ティボーデ独奏、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団

編成:ピアノ独奏、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、ティンパレス、木琴、ヴィブラフォン、グロッケンシュピール、大太鼓、金属片、マークツリー、トライアングル、シンバル、クラベス、銅鑼、ハーブ1、弦5部

モーリス・ラヴェル(1875～1937)

ピアノ協奏曲 ト長調

モーリス・ラヴェルの名前は、同じくフランス近代を代表する作曲家、ドビュッシーと並んで語られることが多いかもしれない。しかしながらドビュッシーよりも13歳年下のラヴェルの音楽は、印象主義的な響きとともに、むしろ18世紀へと回帰した、より明確な旋律線と古典的で均整のとれた形式を個性としている。

それとともに母親がバスク人で、自身もスペインと国境を接する県に生まれたことから、ラヴェルは生涯にわたってスペイン、もしくはバスクにまつわる作品を書いた。一般にラヴェルの最も充実した創作期は、第一次世界大戦までと言われ、1920年代に入ると、ムソルグスキーの組曲《展覧会の絵》のオーケストラ編曲や《ボレロ》など、作品数はぐっと限られてくる。そのなかでラヴェルが「同時に2曲の協奏曲を構想して書いていくのは、おもしろい経験でした」と述べたように、1930年に左手のための、1931年にト長調のピアノ協奏曲を立て続けに完成させたのは、まさに僥倖と言わざるを得ないだろう。単一楽章で重厚な左手のための協奏曲に対して、ラヴェルはこのト長調のピアノ協奏曲を「モーツァルトとサン＝サーンスの精神」で作曲したと説明している。

曲は3楽章構成。

ソナタ形式による**第1楽章**は、むちの一打によって鮮やかに開始され、バスク民謡風の第1主題、「ジャズから借りた要素」を含む第2主題と続く。静かで美しい、子守歌のような**第2楽章**。**第3楽章**はきわめてバスク的と評される、にぎやかなパレードを思わせる音楽で、ジャズのイディオムも入り乱れる。

第1楽章:アレグラメンテ

第2楽章:アダージョ・アッサイ

第3楽章:プレスト

石川亮子 Text by ISHIKAWA Ryoko

作曲:1929～1931年

初演:1932年1月14日パリ、作曲家自身の指揮、マルグリット・ロンの独奏、ラムルー管弦楽団

編成:ピアノ 独奏、ピッコロ1、フルート1、オーボエ1、イングリッシュホルン1、小クラリネット1、クラリネット1、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、タムタム、トライアングル、ウッドブロック、むち、ハープ1、弦5部

10/6 SUN.

モDEST・ムソルグスキー(1839～1881)／モーリス・ラヴェル(1875～1937)

展覧会の絵

この名編曲誕生の功労者が、ロシア出身でアメリカで活躍した指揮者セルゲイ・ワセヴィツキー(1874～1951)。1909年に同時代のロシア音楽振興を目的に私財を投じて音楽出版社「ロシア音楽出版社」を創業したワセヴィツキーは、1938年までに600曲以上の楽譜を刊行、スクリャービン、ラフマニノフ、メトネル、ストラヴィンスキー、プロコフィエフほかの主要作品を次々に出版した。指揮と出版事業の双方に利潤をもたらし、作品の受容にも決定的な影響を与えたのが、1922年にモーリス・ラヴェルにオーケストラ編曲を依頼したムソルグスキーのピアノ組曲《展覧会の絵》だった。ワセヴィツキーは長らく独占演奏権を保持し、楽譜が出版されたのは1929年だった。

10曲の小曲と5曲の〈プロムナード(散策)〉からなる原曲は、1874年6月の3週間ほどの間に、急逝した友人の建築家・デザイナー・画家ヴィクトル・ハルトマンを追悼して作曲された。ハルトマンの追悼展を見るムソルグスキーは〈プロムナード〉として表され、展示された絵画が親友への想いととも音楽で描かれる……と割り切って説明できるほど、楽曲の内実も絵と楽曲との関係も決して単純ではない。源泉資料はムソルグスキー自身の書いた自筆譜一点のみ、ハルトマンと作曲者の関係を伝える一次資料もない。楽譜は作曲者の没後1886年に後輩リムスキー＝コルサコフの「修正」を経て出版されたが、そのころにはムソルグスキーはほぼ忘れられていた。確実な演奏記録は1896年にパリで、次いで1903年にモスクワで確認され、初めてオーケストラ編曲を作成したロシアの音楽家トゥシュマロフは〈プロムナード〉1曲と7曲を選んで編曲した。ピアニストとして《展覧会の絵》をレパートリーとしたプロコフィエフも、リサイタルでは何曲かを抜粋して取り上げるに留まった。

リムスキー＝コルサコフ版に基づいて(そのため中盤の〈プロムナード〉を欠く)全曲が編曲されたラヴェルのオーケストラ編曲は、この組曲をひとつの通作作品として演奏する、今日ではごく当然の演奏習慣を定着させるのに大きく貢献した。さらには修正版ではないムソルグスキー作品の「原典」への関心が呼び覚まされることになった。

ときに意表を突くラヴェルのオーケストレーションについては、名指揮者トスカニーニの評「オーケストレーションの教科書」を挙げれば十分だろう。ラヴェルの編曲以降、ロシア音楽有数のオリジナリティの息づくこの組曲から、音楽のジャンルを超えて極めて多数の編曲が生まれ、カンディンスキーのように新たな絵画を描く画家さえ現れた。これら美術と音楽の往還から、今後も《展覧会の絵》に基づく新たな作品が生み出されることは確かだろう。

〈プロムナード〉 ハルトマンの遺作展を見にゆく作曲家。

〈小人〉 精霊。原画はクリスマスツリーの飾りとして作られた、こびとの頭と足を備えた子どものおもちゃのデザイン画。

〈プロムナード〉 穏やかな気分に変化する。

〈古城〉 原画は不明。一般的には「中世イタリアの城、その前で吟遊詩人が歌う」と解される。歌曲集《死の歌と踊り》第2曲、瀕死の娘に死神が歌う〈セレナード〉と似た曲想を持つ。

〈プロムナード〉 やや重い足取り。

〈テュイルリーの庭〉 パリのテュイルリー公園で遊ぶ子どもたち。

〈ビドロ〉 最も謎めいた曲。原題はポーランド語で役牛、役畜の意味の「ブイドウォ」、対応するロシア語「ブィドロ」は暗愚な農民を暗示する。作曲家の友人だった画家レーピンの代表作『ヴォルガの船曳き』（ムソルグスキーはこの絵の複製を持っていた）に触発されたと主張する者もいれば、作曲者が「4輪の荷馬車」と説明したことを根拠にプーシキンの詩『人生の荷馬車』との関連を説く研究者もいる。

〈プロムナード〉 物悲しい気分へと転じる。

〈殻を付けたひな鳥のパレエ〉 原画は卵から頭と手足の出ているパレエの衣装のデザイン画。

〈サミュエル・ゴールデンベルクとシュミュイレ〉 金持ちのユダヤ人（「金山満男」とでも訳せそうだ）と貧しいユダヤ人の肖像。「シュミュイレ」は「サミュエル」をイディッシュ語で発音するときの響きに近い。作曲者に靈感を与えた絵は同定されていたが、近年のロシアのハルトマン研究によれば、従来「貧しいユダヤ人」とされていた絵はイタリアの老いた農夫を描いた絵画である。

〈リモージュの市場〉 原画不明。市場で飛び交うナンセンスな「大ニュース」。ムソルグスキーは自筆譜にニュースの内容を2通り書いて抹消している。

〈カタコンブ（ローマの地下墓地）～死者とともに死者の言葉をもって〉 原画はローマではなくパリの地下墓地の絵。自筆譜の書き込みによれば「死せるハルトマンの独創的な精神が私を骸骨の方へ導き、骸骨に呼びかける。そして骸骨はゆっくりと輝き始める」。

〈鶏の足の上の小屋〉 スラヴ民話の魔女バーバ・ヤガーの住む小屋。原画は14世紀のロシア様式による時計のデザイン画。

〈キエフの大門〉 原画はロシアの古都キエフ（現ウクライナのキーウ）に建てられる凱旋門の図案画。門には3つの鐘を持つ教会が付設されている。ロシアの伝統文化とハルトマンへの壮麗な賛歌。

高久 暁 Text by TAKAKU Satoru

作曲：1874年6月、1922年編曲

初演：1922年10月19日パリ、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、パリ・オペラ座管弦楽団（現・パリ国立歌劇場管弦楽団）

編成：フルート3（ピッコロ持替2）、オーボエ3（イングリッシュホルン持替1）、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、アルトサクソフォン1、ホルン4、トランペット3（ピッコロトランペット持替1）、トロンボーン3、テナーチューバ1、バスチューバ1、ティンパニ、シロフォン、グロックンシュピール、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タムタム、鐘、鞆、ラチェット、ハーブ2、チェレスタ、弦5部

10/12 SAT. 13 SUN.

第725回 定期演奏会

2024年10月12日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.725

Sat. 12th. October 2024, 18:00 Suntory Hall

川崎定期演奏会 第97回

2024年10月13日(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.97

Sun. 13th. October 2024, 14:00 MUZA Kawasaki Symphony Hall

クシシュトフ・ウルパンスキ [指揮]

デヤン・ラツィック [ピアノ]

小林 啓成 [コンサートマスター]

Krzysztof URBAŃSKI, Conductor

Dejan LAZIĆ, Piano

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番

ハ短調 op.18 (33')

I. モデラート

II. アダージョ・ソステヌート

III. アレグロ・スケルツァンド

休憩(20')

S.RACHMANINOFF: Piano Concerto No.2
in C minor op.18 (33')

I. Moderato

II. Adagio sostenuto

III. Allegro scherzando

Intermission(20')

ショスタコーヴィチ:交響曲 第6番

口短調 op.54 (30')

I.ラルゴ

II.アレグロ

III.プレスト

D.SHOSTAKOVICH: Symphony No.6

in B minor op.54 (30')

I. Largo

II. Allegro

III. Presto

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/川崎市(10/13)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(10/13)
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(10/13)

クシシュトフ・ウルパンスキのプロフィールはP.4をご覧ください

楽曲解説はP.12をご覧ください



MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL



©Susie Knoll

Dejan LAZIĆ

Piano

デヤン・ラツィック
【ピアノ】

クロアチア・ザグレブ出身。新鮮な解釈、壮大なテクニック、芳醇で思慮深い音色で、ユニークな音楽家としての地位を確立している。

アトランタ響、オーストラリア室内管、ボストン響、ブダペスト祝祭管、シカゴ響、バーミンガム市響、デンマーク放送響、ヘルシンキ・フィル、香港フィル、バーゼル室内管、メルボルン響、NDRエルプフィル管、オランダ・フィル管など世界のオーケストラと定期的に共演。コロソ劇場(ブエノスアイレス)やリンカーン・センター(ニューヨーク)、メルボルン・リサイタル・センターでのリサイタルのほか、ジョシュア・ベル、ソル・ガベッタ、アンドレアス・オッテンザマー、ベンヤミン・シュミットらとともに、グシュタード・メニューイン音楽祭を含む数々の音楽祭に出演。

作曲家としての評価も高く、2015年にはシコルスキー出版社と契約。2024年、自身が作曲、初演を務めたピアノ協奏曲「Istrian Rhapsody」の収録CDが、オーパス・クラシック賞にノミネートされた。

Dejan Lazić's fresh interpretations of the repertoire have established him as one of the most unique and unusual soloists of his generation. He regularly plays with orchestras such as the Atlanta Symphony, Australian Chamber Orchestra, Boston Symphony, Budapest Festival Orchestra, Chicago Symphony, City of Birmingham Symphony, Danish National Symphony, Helsinki Philharmonic, Hong Kong Philharmonic, Kammerorchester Basel, Melbourne Symphony, NDR Elbphilharmonie and Netherlands Philharmonic Orchestra. Chamber concerts and recitals take him to venues such as Teatro Colón (Buenos Aires), Lincoln Center (New York), Melbourne Recital Centre, Forbidden City Recital Hall (Peking) and to festivals such as the Gstaad Menuhin Festival with chamber music partners such as Joshua Bell, Sol Gabetta, Andreas Ottensamer and Benjamin Schmid (a.o.).

Dejan Lazić's compositions receive increased recognition, he was signed as a composer by the Sikorski Music Publishers in 2015. His latest recording of his piano concerto Istrian Rhapsody was nominated for the Opus Klassik Award 2024.

10/12 SAT. 13 SUN.

セルゲイ・ラフマニノフ(1873～1943)

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18

1897年の《交響曲第1番》初演の大失敗により大きな精神的痛手を受けたラフマニノフは、しばらく作曲活動に身が入らなくなった。指揮活動などに力を注いでいたが、しばらく経った1900年春、創作意欲を蓄えて取り組み、結果的に「復活」のアピールとなったのがこの《ピアノ協奏曲第2番》である。一般にニコライ・ダーリ博士の暗示療法が功を奏して、作曲の意欲を取り戻したとされるが、当時、博士の家に滞在していた女性エレナにラフマニノフが恋心を抱いたとされ、むしろそれが曲のインスピレーションの源になったという説も存在する。

当時としては斬新だった《交響曲第1番》とはうって変わり、濃厚なロマンティズムが前面に出るこの作品は、初演時から好評を博し、当時すでに前衛的な音楽に夢になっていた人々の間でも評判になったという。

第1楽章 モデラート 2/2拍子 ハ短調 自由なソナタ形式

鐘の音のようなピアノの和音が徐々に響きを増していく冒頭から大変印象的である。作曲家のメトネルは、「はじめから鐘が鳴るごとにロシアがすっと立ち上がるかのように感じる」と述べている。2つの主題は息の長いもので、抒情性と哀愁を伴い、さらにピアノソロが活躍する技巧的なパッセージも随所に挿入され、それが典型的な協奏曲の形式へと見事にまとめ上げられるその作曲技法はまさに職人芸的と言うほかない。

第2楽章 アダージョ・ソステヌート 4/4拍子 ホ長調 複合三部形式

1891年作の6手ピアノ連弾のための《ロマンス》の冒頭のアルペジオがこの楽章の主題の原型となっているが、これは幸福だった青春時代の追想だろうか。静寂が支配するなか、葉ずれや小川のせせらぎの音も聞こえてくる。

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド 2/2拍子 ハ短調

舞曲風の音楽に始まり、めまぐるしい旋回運動が繰り広げられるが、それと対比されて抒情的な第2主題が置かれる。その第2主題に基づく堂々たるコーダは、エネルギーが最高潮に達し、圧巻である。

高橋健一郎 Text by TAKAHASHI Kenichiro

作曲：1900年～1901年

初演：1901年10月27日モスクワ、作曲家自身の独奏ピアノ、アレクサンドル・ジロティ指揮、モスクワ・フィルハーモニー協会

編成：ピアノ独奏、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、バスチューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦5部

ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906~1975)

交響曲 第6番 口短調 op.54

交響曲第6番は第一に、堂々たる成功を収めた交響曲第5番(1937年)に続く作品という意味で、ショスタコーヴィチにとって少なからぬ意義を持つ作品だった。熱烈な賛辞を受けた彼の交響曲第5番が、いわゆる「プラウダ批判」からの名誉回復の助力となったことはよく知られている。この流れを意識してか、ショスタコーヴィチはそれに続く交響曲が合唱つきの壮大な「レーニン交響曲」であると盛んに触れ回った。しかしその企図はいつしか退き、改めて最終的に発表された交響曲第6番は標題のない純粹器楽作品だった。ショスタコーヴィチ自身は本作の曲想を「春、喜び、若さ、叙情性といった雰囲気」と語っているが、本曲のもつ前作第5番や「レーニン交響曲」との歴史的関連、緩・急・急の特異な楽章構成、聴こえてくる独特な音像、音楽の流れは、彼が語る以上に聴き手の前に様々な解釈の可能性をひらいている。

第1楽章は展開部を欠くソナタ形式による。重々しい付点音符をもつ冒頭動機を従えた主要主題は、葬送行進曲を思わせる。息長い旋律が表現豊かな新動機による頂点を導くと、冒頭動機と新動機とが様々に労作されていく。わびしげな副次主題も冒頭主題と同じように葬送行進曲のリズム動機をもつ。口短調の短い再現部では、滑らかな三連符の伴奏が両主題の重苦しさを和らげ、ほの明るいムードが音楽に差し込む。

第2楽章は急速なスケルツォ楽章。主要主題は縦横無尽に駆け回るパッセージ。躍動的な中間部は、様々なリズムが伸び縮みしながらクライマックスへと向かう。冒頭旋律とその反行型が同時に演奏される一捻りある主題の回帰は耳に楽しい。

第3楽章では、軽快で歯切れのいい第一主題と、皮肉交じりでおどけた調子の第二主題が主役を担う。中間部ではダイナミックな三拍子のリズムが軸となり、主部と鮮やかな対照をなす。終結部の楽想は底抜けに明るく、華やかに楽曲を締めくくる。

山本明尚 Text by YAMAMOTO Akihisa

作曲：1939年7月～10月

初演：1939年11月5日、エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団、レニングラード・フィルハーモニー大ホール

編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット3(小クラリネット持替1)、バスクラリネット、ファゴット3(コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バスチューバ1、ティンパニ、トライアングル、大太鼓、小太鼓、シロフォン、タムタム、シンバル、タンブリン、ハープ2、チェレスタ、弦5部



Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第2番 名曲までの 軌跡

大井駿 (指揮者・ピアニスト・古楽器奏者)

ロシアで生まれ育ち、アメリカで半生を過ごした作曲家にして名ピアニスト、セルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)。

彼の名作の中でも真っ先に名前が上がるのが、ピアノ協奏曲第2番である。この作品が、いかにして聴衆に愛されるようになったのだろうか。

大きな挫折

ピアノ協奏曲第2番の誕生を語るには、ラフマニノフが経験した大きな挫折は無視できない。モスクワ音楽院を卒業し、これから作曲家として活動しようという希望に溢れた時期に、満を持して交響曲第1番を作曲。1897年(24歳)の時に、グラズノフの指揮にて初演されたが、歴史的な大失敗に終わったのだ。

ロシア五人組の一人、ツェーザリ・キュイからは、「もしも地獄に音楽院があり、その生徒が旧約聖書の災いを元にラフマニノフのような交響曲を書いたならば、地獄の住民たちは喜ぶだろう*」という、なんとも辛辣な酷評を叩きつけられ、その後3年間は作曲するモチベーションを完全に失ってしまった。その間、悪夢のような初演を忘れようとするかの如く、ラフマニノフは演奏活動に専念し、ピアニストとしてだけでなく、指揮者としても様々な場所のステージに上がった。

※参考:クラシック名曲「酷評」事典 下巻、ニコラス・スロニムスキー

克服、作品に見られるその形跡

ただ、依然として精神状態は安定せず、公演もキャンセルが続くように。そこで精神科医ニコライ・ダーリを紹介してもらい、半ば催眠療法のような治療を受けることで少しずつ前向きな気持ちになり、新たな作品としてピアノ協奏曲第2番の作曲に着手。一年足らずで完成させたのだ。

この曲は、アマチュアのヴィオラ奏者でもあったダーリに捧げられたが、そのことも意識してなのか、ピアノ協奏曲第2番

ではヴィオラが重要な役割を担うことが多いのも大きな特徴である。

さらに、友人による看病の形跡も垣間見える。同門の作曲家ニキタ・モロゾフが、見舞いにラフマニノフの家を訪れ、自身が作曲したメロディーをピアノで弾いた時のこと。ラフマニノフがそのメロディーを耳にし、「僕もこんなメロディーを書けたらなあ」とぼやいたことに対し、モロゾフがそのメロディーをラフマニノフにプレゼントしたというのである。元々ピアノ協奏曲第2番は第3楽章から作曲されたのだが、このメロディーはそのまま第3楽章の第2主題に使われたのち、それを元に第1楽章の第2主題にも手を加えて転用された。さらに、第2楽章は、初恋の相手の3姉妹のために書いた《6手のためのロマンス》を引っ張り出し、それを使って書いた。

こうして、過去の思い出や、友人の知恵を借りて作曲されたピアノ協奏曲第2番の初演は大成功。スランプを克服し、作曲家としての自信を取り戻した。ラフマニノフは生涯を通して、ピアノ協奏曲第2番を総計143回演奏したが、これは彼が演奏したピアノ協奏曲の中でもダントツの回数である。おそらくラフマニノフ自身、この作品に特別な作品だと捉えていただろうし、聴衆もこの作品の演奏を強く求めていたからに違いない。

これが作曲にまつわる顛末だが、甘美でドラマチック、かつ「暗から明へ」という構図がわかりやすいこの作品は、コン

サートホールを飛び出して、様々な場所で耳にされるようになる。

様々な場面でのピアノ協奏曲第2番

そのきっかけとなったのが、映画の中での登場である。まず、1945年に映画「逢びき」の中で終始用いられ、続いて1955年に、マリリン・モンロー主演の映画「七年目の浮気」などの多くの映画で使用された。特に「七年目の浮気」は、モンローのスカートがめくれるシーンで有名な作品である。どこか哀愁が漂いつつも、甘いメロディーと絶妙なハーモニー、そしてドラマチックな展開が琴線に触れるピアノ協奏曲第2番は、やはり映画音楽には持ってこいだっただろう。これを発端に、日本国内外のドラマやCMでも頻繁に使用され、よく耳にする音楽となった。

そして、フィギュアスケートの世界でも、様々な選手がこの作品をバックに華麗な踊りを繰り広げていることも忘れてはならない。フィギュアスケートにおいても音楽が与える印象は非常に大きい。そこでもやはりピアノ協奏曲第2番は映画の中での役割と同じく、観衆たちの心を揺さぶりにかかるのである。

こうして大衆的な音楽の市民権を得たラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は、ある意味耳馴染みのいい音楽として挙げられることもあるが、作曲者の汗と涙と執念が染み込んだこの作品は、やはり何度聴いても恐ろしいくらいに聴き応えのある最高の純音楽であることを付け加えなければならぬだろう。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティーワイリミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鯨株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティストホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。
 *新会員の方です、ありがとうございました(8月28日現在、五十音順)。

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額**1万円**
~29,999円

フレンズ3

年額**3万円**
~49,999円

フレンズ5

年額**5万円**
~99,999円

サークル10

年額**10万円**
~249,999円

サークル25

年額**25万円**
~499,999円

サークル50

年額**50万円**~

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額**10万円**~

シルバー

年額**30万円**~

ゴールド

年額**50万円**~

ダイヤモンド

年額**100万円**~

プラチナ

年額**1000万円**~

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{a)}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{a)}

*但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

百戦錬磨、オールマイティーな打楽器奏者

新澤義美

NIIZAWA Yoshimi

[打楽器奏者] 1986年1月入団

趣味:動物と触れ合うこと



©N.Ikegami

当時は珍しかった「マリンバ」

幼稚園の先生に「この子は音痴だから、何か音楽を勉強させた方がいい!」と言われた両親が、地元の音楽教室のグループレッスンに通わせたのが音楽人生のはじまりでした。小学3年生になり「もう音楽教室を卒業するぞ!」と思っていた矢先、マリンバ奏者の平岡養一さんの実演を聴く機会に恵まれて「この楽器がやりたい!」と魅せられてしまったのです。当時マリンバはとてもマイナーで、先生はおろか、そもそも楽器を探すのも大変でした。

中学生になると、当時流行っていたフォークソングにはまり「クラシックではない音楽を」とブラスバンド部に打楽器担当として入部しましたが、予想と異なり練習はぼろぼろの机を叩くばかり。それが嫌で部活をサボっていたところを先輩に見つかり、音楽室に引きずり戻されたときに聴こえてきたのが、吹奏楽版のビートルズ「Hey Jude」でした。そのホルンの旋律が、今思えば上手ではなかったとは思いますが、とても心に響いて「音楽で人生を歩みたい」と感じたのです。

その後、ブラスバンド部で打楽器、個人レッスンでマリンバの練習を続け、国立音楽大学に進学しました。卒業時に出演したマリンバ新人演奏会は、出演者10人のうち、私以外は全員女性。男性のマリンバ奏者は珍しく目立っていたからか、そこで声をかけてくれたのが新井汎さん(元東響首席打楽器、元音楽事務所サウンドギャラリー社長)でした。

私は出会いにも恵まれ、様々な楽団のエキストラを経験させてもらい、東響に入団しても沢山の曲を演奏しました。難しいものも一通り演奏しましたね(笑)。ボレロは100回以上やっていますし、打楽器奏者から「トライアングル協奏曲」と呼ばれているリストのピアノ協奏曲も、学生向け公演で3日間8公演を完走しました。これだけの経験をさせてもらおうと、あらゆることが余裕をもって出来るようになるものだなと感じます。

動物との至福の時間

かれこれ40年ほど猫と暮らしていて、娘も動物看護師になったほどの動物好き一家。休みの日は、猫と犬(ただしこの2匹は仲が良くないのです……)に構ってもらっています(笑)。最近私が注目しているのが「マヌルネコ」。現存するネコ科動物のなかで最古の種類といわれていて、那須どうぶつ王国や上野動物園など、全国でも限られた場所ではしか会うことができません。先日仕事で名古屋に行った際も、時間を見つけて東山動物園に立ち寄り、マヌルネコに会ってきました!



犬(ボメラニアン)のキナコと、猫(ベンガル)のチマ

インタビュー:事務局

Tokyo Symphony Orchestra Asia Project



～東京交響楽団アジア・プロジェクトとは～

独立行政法人日本芸術文化振興会による<新たなオーケストラ支援事業>の3年間の助成に採択され、2024年2月より開始。これまでの日本のオーケストラの海外公演とは異なった新しい形で、アジアに新たな拠点を築き、日本からアジア全体へと視野を広げて、多角的な活動を展開します。

Report

2024年5月27日～6月2日

シラパコーン・サマー・ミュージック・スクール (SSMS)

シラパコーン大学とのパートナーシップ締結により、タイ・パタヤでのSSMSに当団奏者ら5名を派遣しました。長年SSMSに音楽監督として携わる矢崎彦太郎氏の下、タイやマレーシアから参加した10～20代の若者たち50名と、4日間の熱のこもった音楽合宿を経て、6月1日パタヤ (SCBトレーニングセンター)、2日バンコク (シラパコーン大学講堂) での披露コンサートに臨みました。毎年参加している大学生は、「今年は、東京交響楽団の人たちが来てくれて特別に楽しかった」。また当団楽員たちも、「子供たちの素直さや、現地の優しい方々との交流から得るものが多かった」とのこと。このような音楽教育に、プロのオーケストラとして関わっていくことの意義を感じたプロジェクトでした。



タイやマレーシアから参加した学生たちと。

2024年7月30日

RBSO&TSO フレンドシップコンサート

RBSO (ロイヤルバンコク交響楽団) と TSO (東京交響楽団) のフレンドシップコンサートがキングスカレッジ・インターナショナル・バンコクのグレートホールで開催されました。このコンサートはタイの国王ラマ10世の72歳の誕生日に合わせて、両オーケストラが企画したプログラムで、原田慶太楼の指揮の下、ワックスマン: カルメン幻想曲 (ヴァイオリン: 神尾真由子) や、ヒナステラ: エスタンシアなどを合同オーケストラで演奏し、最後は聴衆の手拍子、楽員は足拍子で多いに盛り上がりました。



演奏はもちろん、英語のMCでも会場を盛り上げた、正指揮者 原田慶太楼。



ワックスマン「カルメン幻想曲」を弾く神尾真由子。



エスタンシアのフィナーレは、全員で立奏。

NEWS & TOPICS

音楽監督

ジョナサン・ノット LAST SEASON

2025/26年シーズンラインナップを発表

私の音楽監督としての最後のシーズンを迎えるにあたり、私の指揮する全ての公演を、“Song(歌)”という一貫したコンセプトでプログラミングしました。

私と東京交響楽団の音楽の旅は、マーラーの交響曲第9番から始まり、同じ曲で終わりを迎えます。始まりと終わりが繋がり、一つのループとなって、永遠に続く旅の様にも感じられます。そんな万感の思いを込めて私の“Song”をお届けしたいと思います。

—音楽監督ジョナサン・ノット

～ジョナサン・ノット指揮 主なラインナップ～

ブルックナー：交響曲 第8番 (4/5、4/6)

マーラー：「子供の魔法の角笛」より (4/12)

マーラー：花の章 (4/12)

ブリテン：戦争レクイエム (7/19、7/21)

リゲティ：歌劇「ル・グラン・マカーブル」より「マカーブルの秘密」(9/20)

モーツァルト：交響曲第41番「ジュピター」(9/20)

J.S.バッハ：マタイ受難曲 (9/27、9/28)

ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」(11/15)

マーラー：交響曲 第9番 (11/22、11/23)

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリーズ

■定期会員券

東響会員先行発売：2024年11/28(木) / 一般発売：12/5(木)

■選べるプラン・1回券

東響会員先行発売：2025年1/21(火) / オンライン先行発売：1/24(金) / 一般発売：1/29(水)

特別演奏会

■《ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」(演奏会形式)》

東響会員先行発売：2025年6/12(木) / オンライン先行発売：6/16(月) / 一般発売：6/19(木)

正 団 員 2024年10月1日付 荒木良太 ARAKI Ryota [首席オーボエ奏者]

大阪大学基礎工学部を卒業と同時に東京藝術大学音楽学部器楽科へと進学し、首席で卒業。4年次在学中に東京交響楽団に入団。現在同大学大学院修士課程在籍中。これまでにオーボエを大島弥州夫、広田智之、吉井瑞穂、佛田明希子、和久井仁の各氏に師事。第37回日本管打楽器コンクール第1位ならびに東京都知事賞、文部科学大臣賞受賞。東京藝術大学にてアカサカ音楽賞、安宅賞受賞。その他NHK-FM「リサイタル・パッション」への出演や、ソリストとして藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演する。



特別演奏会「小山実稚恵 コンチェルト・アフタヌーン」開催

ニューイヤーコンサートでもおなじみ、日本音楽界を牽引するピアニスト小山実稚恵が、究極の2大コンチェルトをお送りします。

2025年 3/11 (火) 14:00 横浜みなとみらいホール
指揮: 沼尻竜典、ピアノ: 小山実稚恵
ヘンデル: シバの女王の入城 / ショパン: ピアノ協奏曲 第1番
ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番
チケット発売中 S席 ¥6,500、S席シルバー (65歳以上) ¥6,000、A席 ¥4,000



東京交響楽団のライブ収録CDが続々発売!

東響SHOP(公演会場・オンライン)でも取り扱いがございます。
是非お立ち寄りください。



音楽監督ジョナサン・ノット指揮
マーラー: 交響曲 第6番「悲劇的」

2023年5/20サントリーホール、5/21ミュゼ川崎シンフォニーホールにてライブ収録
2024年8月28日発売 / 4,546円(税抜)



桂冠指揮者 秋山和慶指揮
ドヴォルザーク: 交響曲 第9番「新世界より」

2024年1/6 横浜みなとみらいホールにてライブ収録
2024年9月25日発売 / 3,200円(税抜)



名誉客演指揮者 大友直人指揮
チャイコフスキー: 交響曲 第6番「悲愴」

2023年9/16ミュゼ川崎シンフォニーホールにてライブ収録
2024年9月25日発売 / 3,500円(税抜)



NEXT PROGRAM



11/9 第726回 定期演奏会
(土) 18:00 サントリーホール

※11/10(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホールでも同プログラムで開催

指揮: ジョナサン・ノット、クラリネット: マルティン・フレスト

メゾソプラノ: 中島郁子、バリトン: 青山 貴

合唱: 東響コーラス、合唱指揮: 福島章恭

ラヴェル: スペイン狂詩曲

ジャレル: クラリネット協奏曲「Passages」

(スイス・ロマン管弦楽団/トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団/
東京交響楽団/サンパウロ州立交響楽団による共同委嘱作品・日本初演)

デュリュフレ: レクイエム

S¥10,500 A¥8,500 B¥6,500 C¥4,500



11/15 東京オペラシティシリーズ 第142回
(金) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮: ジョナサン・ノット、オルガン: 大木麻理

チェロ: 伊藤文嗣(東響ソロ首席)、ピアノ: 務川慧悟

リグティ: ヴォルミーナ

ハイドン: チェロ協奏曲 第1番

モーツァルト: ピアノ協奏曲 第9番「ジュノム」

S¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



2025年

3/23 新潟定期演奏会 第140回
(金) 17:00 リゅーとぴあ

新潟市民芸術文化会館コンサートホール

次回の新潟
定期演奏会は...

指揮: 秋山和慶

ソプラノ: 鈴木愛美

メゾソプラノ: 郷家暁子

テノール: 田中裕太、バリトン: 妻屋秀和

合唱=いがた東響コーラス

ベートーヴェン: 「エグモント」序曲

ベートーヴェン: 交響曲 第9番「合唱付」

S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,500



リゅーとぴあチケット専用ダイヤル025-224-5521 (11:00 ~ 19:00 / 休館日除く)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリホール、ミュザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開。教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウインター楽友協会をはじめ59都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトゥルス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど各メディアで絶賛され、第3弾《ばらの騎士》にも期待の声が寄せられている。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT PROGRAMME
Symphony

Symphony 2024年(令和6年)10月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエイ